

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	宮崎県	事業実施主体	宮崎県、日之影町	地域再生計画名	森林の恵みで光さすまち日之影計画
計画期間	令和3年度～令和7年度	評価責任者	日之影町地域振興課長 関 雅人		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	R2	年度	中間実績	基準年度	R7		指標総数	達成数		
	観光交流の更なる活性化（年間観光入込客数の増）		305,005人	R2	335,000人	R5	389,916人	360,000人	R7	○	3	2	平成30年度に本町の観光産業の拠点である道の駅青雲橋がリニューアルオープンし順調に観光客が増加した。令和2年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、一時期は減少傾向にあったが、規制緩和や高速道の整備、定期的な物産イベント等により、安定的に観光客数の増加に繋がっており、中間目標値を達成した。
	森林整備の促進（コンテナ苗植栽面積の増）		7.69ha	R2	8.50ha	R5	20.04ha	9.50ha	R7	○	3	2	森林資源が本格的な利用期を迎える中、循環型林業の確立、公益的機能の維持を図るため、伐採後の再造林の低コスト化が必要な中、コンテナ苗については、通年植栽が可能で活着率が良く、下刈回数の減など、造林コストの軽減に有効である。町林研グループにおいて、「小花粉スキ母樹園」を設置し、コンテナ生産施設の整備を図り、生産量の拡大を目指していったことで中間目標値を達成した。
	6次産業に取組む事業者数		24人	R2	27人	R5	26人	30人	R7	×			中間目標値27人に対して中間実績26人であり、中間目標値の達成に至らなかった。新型コロナウイルス感染症が終息するものの、長引く物価高騰により各製造課程におけるコストの高止まりなどに起因していると推察する。引き続き、既存のふるさと起業応援事業や新たな仕組みづくりの研究を通じて、6次産業化の支援を行っていく。

②事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（R5）	最終実績見込み	
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（整備延長）	920	604.9	914.9	目標とする整備量に対し、進捗状況（進捗率66%）から、概ね計画的に遂行されている。引き続き、目標達成に向けて整備完了を目指していく。
	林道整備事業（整備延長）	6,924	3,857.6	6,372.2	目標とする整備量に対し、進捗状況（進捗率56%）から、概ね計画的に遂行されている。引き続き、目標達成に向けて整備完了を目指していく。
その他の事業	地方創生推進交付金（伝統農林業と文化を未来につなぐ世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化プロジェクト）	地域資源を産業に活かすビジネス化等			都市部でイベントを開催し、本町の農産物、加工品、自然、観光情報を広くPRするとともに、森林セラピーに新たな要素を加えたツアーを実施し、日之影町や世界農業遺産、森林セラピーの認知度向上を図る。
	地方創生拠点整備交付金（「道の駅青雲橋を軸とした農商工連携」日之影計画）	農産物等の販売や加工商品の開発を行うことで農産物の高付加価値化等			平成30年度に本町の観光産業の拠点である道の駅青雲橋がリニューアルオープンし、観光入込客数が大幅に増加した。また、新型コロナの規制緩和や高速道の整備、定期的な物産イベントも実施して、売り上げも大幅に増加しており、今後も本町の重要な観光拠点施設として観光交流の更なる活性化を目指していく。
計画外で独自に実施した事業	森林環境保全整備事業	造林、下刈りや間伐等の森林施業や森林作業道、林業専用道の開設			木材搬出や森林整備等林業生産活動の活性化を図るため、林業専用道の整備を進めている。計画延長L=2,850m、計画期間H29～H38であり、H30までの完了延長はL=80mとなっているが、計画どおりの進捗となっている。
	木質燃料安定供給事業	木質燃料を安定的に供給するための体制等の整備			日之影温泉駅に設置した木質バイオマスボイラーの燃料用の未利用材を森林組合が買い取り、温泉駅に納入する体制を整備したことにより、木質燃料の安定供給が図られつつある。
	林業担い手創出事業	町内で林業を営む事業者が町内に居住する45歳以下の者を新規雇用した場合の一部経費を補助			林業の担い手確保のため町内で45歳以下を対象に新規雇用を行った林業事業者に対し、雇用保険等の経費を一部助成し事業者の負担軽減とともに新規雇用が促進され労働者の若返りにも繋がっている。
	起業応援事業	新規創業や新商品開発等を行う個人・法人に補助を行う			地域産物等を使用した起業や新規店舗の開店も少しずつだが増えていっており、引き続き、町内で起業しやすい機運の醸成を高めていく環境づくりを行ってきたい。
	「森林セラピー」推進事業	「森林セラピー」による交流人口の増加と観光産業等の振興			既存の森林セラピーに新たな要素を加えたメニューの開発などにより、都市部との交流人口増加につながっている。

③評価方法 日之影町地域創生推進協議会において評価

④中間評価の公表方法 日之影町のホームページに掲載

⑤計画全体の総合評価 本地域再生計画では、道整備交付金を活用した町道整備と林道整備を一体的に行うことにより、地域の観光資源及び地域間のネットワークを強化し、町の特徴をいかしたまちづくり事業や観光・交流促進事業を実施することで、さらなる産業の振興、雇用の創出、安全で安心して暮らせる環境づくりを図ることにより、定住の促進を図ることを目的としている。なお、指標1の年間観光入込客の増加については、平成30年度の道の駅青雲橋のリニューアルオープンにより観光客数が大幅に増加している中、令和6年度はEV充電施設も整備することで、引き続き、本町の観光拠点施設として観光交流の更なる活性化を目指す。また、観光地等へのアクセス改善及び林業施業地へのアクセス改善については、優先順位を見直し、地域再生計画の事業展開を図りたい。

⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況	有りの場合その具体的内容
	地域再生計画の見直し（有・無） 令和7年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 22,150千円	計画上の道路整備を行うことで、観光資源のネットワークの強化や、農林業の振興への目標は概ね達成される見込みであるが、事業進捗状況が若干遅れている。このため、中間評価の結果を踏まえ、計画変更（軽微な変更）を行う。

⑦今後の方針等に対する対応	○事業量及び事業費の変更（軽微な変更）の報告を予定 ○町道5路線（町道宮水戸川線、町道中村大菅線、町道鹿川築崎線、町道鶴の平乙女線、町道二又上長川線） ・整備事業量 認定時920m→見直し後914.9m[5.1m減] ・令和7年度の事業費 認定時75,000千円→見直し後50,700千円[24,300千円（うち交付金12,150千円）減] ・総事業費 認定時385,700千円→見直し後285,700千円[100,000千円減] [うち中間評価結果を反映した減額24,300千円（うち交付金12,150千円）減]	○事業量及び事業費の変更（軽微な変更）の報告を予定 ○林道7路線（林道竹の原・諸和久線、林道高千穂町・日之影線、林道戸川線、林道大菅線、林道樅木尾・鳥屋の平線、林道宇目・須木線、林道二千山西線） ・整備事業量 認定時6,924m→見直し後6,370m[554m] ・令和7年度の事業費 認定時165,000千円→見直し後145,000千円[20,000千円（うち交付金10,000千円）減] ・総事業費 認定時1,187,000千円→見直し後1,116,715千円[70,285千円減] [うち中間評価結果を反映した減額20,000千円（うち交付金10,000千円）減]
---------------	---	---